

人は生まれる場所を自分で決めることはできません。そして子どもの頃は自分が住む場所を決めることはできません。だけど人は自分の住む場所が明るく、楽しい場所であるようにと願っていると思います。人それぞれ感じ方は違うと思いますが、明るく、楽しい地域にしてくれるものの要素は自分の周りにいる人たちの存在であると私は考えます。例えば、自分が誰かに嫌なことを言われたときに自分を助けてくれる人や自分が誰かを傷つけてしまったときに自分と向き合ってくれる人。このような人たちが自分の周りにいてくれることで自分を明るくさせてくれると思います。

私はある二つの体験を通して、このような考えに至りました。

一つ目の体験は、私がアメリカから日本に引越ししてきた時のことです。私はアメリカで生まれ、四歳までアメリカで育ちました。日本に来てすぐ、保育所に通うことになった私は、保育所がどんな所かあまりわからず不安な気持ちでいました。もちろん、日本語は話せないのも、誰とも関わることができませんでした。実際に保育所に通い始めると、言葉が大きな壁となり、不安が苦しみやつらさへと変わっていきました。毎日、保育所まで送ってくれた母の手を離れた時、泣いてばかりいたことを今でも覚えています。そんな私を助けてくれたのが、保育所の一人の先生でした。その先生は私に日本語を教えてくれたり、私が言いたいことを真剣に聞いてわかろうとしてくれたりする優しい人でした。その当時、私は気づかなかったのですが、今思い返すと、どれほど先生に助けられ、支えられていたのかがわかります。先生には心から感謝しています。

二つ目の体験は、私が四年生の時に、あったことです。私はある女の子と初めて同じ班になりました。話したことがなかったのも、初めはドキドキしていたのですが、その子と気を遣わずにしゃべろうと努力するうちに、お互いのことを深く知り合うようになりました。親しくなるにつれて次第に相手の気持ちに配りよせず、思ったことをストレートに言い合うようになりました。そして私は、その子の見た目に触れることで傷つく言葉を発してしまいました。それも無意識に言ってしまったので、すぐに謝ることができませんでした。そのあと、私はその子と先生と話をすることになり、私の正直な気持ちを伝えました。その子も自分の思いを私に伝えてくれました。人を傷つけてはいけないということに先生やその子の言葉で気づかされ、その話し合いから自分の行動を見直すことができました。自分を傷つけた私と向き合おうとしてくれたその子を大切にしようと思いました。

私はこの二つの体験から、身近な所で困っている友だちやつらそうにしている子に気づいて、その子を助ける行動をとり、自分や相手が言われて傷つく言葉を発しないことの大切さに気づきました。だから、普段の生活でもこのことを心に留めています。

二つの体験をしたとき、私の周りには私を支えてくれた人たちの存在がありました。周りの人に支えられる中で、私も周りの人を大切にすることを考え、相手を思うことができたのだと思います。これが私にとって明るい場所なのだと思います。

でも中には、自分の明るい場所を見つけられていない人たちがいると思います。私はそんな人たちを自分なりの支え方で支援することが大切だと思います。お互いに支え合い、つながることを積み重ねることで明るい社会をつくっていくことができると信じています。